

●水環境・河川・流域 (11) (3-A-15-1~3-A-16-1)

本セッションでは、河川・流域における汚濁物質の動態などに関する研究が4題発表された。

3-A-15-1 では、生物が水環境中に存在する鉄を摂取・利用するメカニズムを検討することを目的として、NOM と鉄との錯体形成反応の速度論的な検討を行った。化学量論比および反応次数の検討結果に基づいた検討、モデル物質と NOM との関係の検討など、今後の展開が期待される。

3-A-15-2 では、琵琶湖に流入する難分解性溶存有機物のノンポイントソースとして道路排水などに着目し、生分解性や土壌浸透処理による削減効果などを検討した。100 日間の生分解実験など、労力を伴う検討がなされていた。今後、削減対策への応用が期待される。

3-A-15-3~3-A-16-1 では、懸濁粒子や溶存有機炭素を対象として、大腸菌の輸送への寄与や河川水などの DOC 濃度の予測が検討された。複雑かつ壮大な系を対象とした野心的な検討であり、今後の展開に興味をもたれる。

すべての発表に当てはまる訳ではないが、全般的に測定方法、計算方法、実験上の仮定などの説明が不足しており、聴衆は十分な内容の理解が困難だったと感じられた。とくに、測定項目の名称が特殊な場合は、測定結果の持つ意味や結果の妥当性などを判断することが困難と感じられ、フロアから同様の質問が寄せられる場面が見受けられた。限られた発表時間を有効に活用するための工夫や、ハイライトの一層の明確化などが必要と感じられた。本学会が取り扱う分野は広範に渡るため、specify された学会における発表とは異なる発表のスタイルが求められると考えられる。Interdisciplinary な学会ならではの、多様な視点からの斬新な議論が活発に展開されることを期待したい。

(鹿児島大学大学院・理工 高梨 啓和)